

堺市指定管理者評価表

(評価対象期間 : 令和5年4月1日 から 令和6年3月31日 まで)

1 基本情報

(1) 公の施設の名称	
堺自然ふれあいの森	
(2) 施設の設置目的	
里地里山の保全、農、散策、遊び、学習などの活動を通じて、里山と人との新しいかかわり方を考えるきっかけの場づくりをするため	
(3) 所管部局	
建設局 公園緑地部 公園緑地整備課	
(4) 指定管理者名	
ふれあいの森パートナーズ (株式会社生態計画研究所、特定非営利活動法人いっちんクラブ)	
(5) 指定期間	
平成31年4月1日から令和6年3月31日まで(5年間)	
(6) 主な事業	
- 堺自然ふれあいの森管理運営事業 (1) 施設の管理に関する業務 施設の維持管理、保守点検、現地調査等 (2) 施設の運営に関する業務 利用者の受入れ、市民ボランティアの育成・協働、各種団体・学校等への利用促進活動等 (3) 自主事業 小学生～高校生向け体験学習、農林産物の栽培・収穫体験と販売等	
(7) 施設分類	(8) 有料施設の有無
産業・基盤施設	有 (利用料金制)
(9) 選定方法(公募・非公募の別)	
公募	
(10) 主な利用者	(11) 市内における受益対象者数
市民	市民(不特定多数)
(12) 近隣の類似施設	
無	

2 管理運営状況

(1) 適正な管理運営の確保

ア 取組状況

平等利用、安全確保、個人情報の保護等	・開閉園時に園内巡回を行い、危険個所の解消や予防、職員間での情報共有を行った。 ・オオスズメバチやマムシ等、危険生物による被害防止のため施設利用者に対して注意喚起などを行った。 ・個人情報保護については、個人情報の保護に関する法律の規定に基づき、個人情報の利用目的と範囲を明確にし、適法かつ公正な手段により必要最小限の情報を収集した。特にプログラム参加者の住所、氏名、年齢、性別、電話番号、メールアドレス、写真などの取扱いについては、個人情報及びコンプライアンス研修を通して職員全員で共通認識を持ち、個人情報の保護に細心の注意を払った。
職員配置、人材育成、施設の維持管理等	・職員配置については、施設運営に必要かつ適正な人員を配置した。 ・人材育成については、自衛消防訓練や救命救急研修、人権研修、個人情報及びコンプライアンス研修等を実施し、管理運営に必要な専門知識や技術習得および継続的に能力の向上を図った。
施設の設置目的に沿った事業の実施	・「周辺環境との連続性をふまえつつ、自然環境の保護、活用、復元を図っていく“里地里山の保全”を目標とし、里地里山と人との新しい関わり方を考えるきっかけの場づくりをめざす」という設置目的に基づき、効果的・効率的な管理運営を行った。 ・また、周辺環境の変化に応じ、柔軟に生物多様性の向上を念頭に置き、里地里山の生態系に配慮した順応型管理を基本として、管理運営に取り組んだ。
その他特筆すべき取組	特になし

イ 市による状況分析

施設の設置目的に基づき、周辺環境の変化に応じ、順応型管理を基本として、利用者が安全に利用できるよう巡回や対応を行い適切に管理運営を行っていた。また、各研修に取り組み、管理運営に必要な知識や技術等の能力向上に努めていた。

(2) 利用者サービスの向上

ア 利用状況

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
指定管理者名	ふれあいの森 パートナーズ	ふれあいの森 パートナーズ	ふれあいの森 パートナーズ	ふれあいの森 パートナーズ	ふれあいの森 パートナーズ
利用者数(単位:人)	25,039	24,818	29,413	30,270	—
稼働率(単位:%)	—	—	—	—	—
利用者満足度(単位:%)	96.0	99.7	98.9	99.2	—

イ 取組状況

サービス向上、利用促進、自主事業	・園内の動植物調査を定期的実施し、その結果を元に森の館内に自然情報を掲示し、来園者へ随時情報提供を行った。特に、園内に生息する生きものの紹介や解説だけでなく、調査中に撮影した哺乳類の動画は来館者から非常に好評であった。 ・来園者と気軽にコミュニケーションを取りながら自然や里山に関する学習の機会を提供できるよう、野外でも巡回時に質疑応答や解説対応(フィールド対応)を積極的に行った。
意見・苦情・要望等への対応	・いただいた要望については、対応できる範囲で応えられるように善処した。プログラム内容などに関する要望については、アンケート結果なども勘案し、今後の運営会議等の場で関係者間で協議の上、段階的に検討していくものとした。 ・その他、園内の自然情報や季節の見どころなどに関する要望については、来園者に口頭で説明するほか、SNS等での発信を実施した。
その他特筆すべき取組	・令和5年度も南部丘陵の担い手育成の取組として、大学生が講師となり市民を対象に里山の保全プログラムを実施する取組を行った。 ・指定管理者は講師役の大学生に対して、南部丘陵の状況把握のための視察や調査スキル、プログラムの企画運営のノウハウなどを事前にレクチャーするなどサポートした。

ウ 市による状況分析

・来園者に興味をもってもらうような展示の工夫や丁寧な来園者対応など利用者サービスの向上に取り組んでおり、利用者満足度は高い水準を維持している。
・また、令和4年度に引き続き、南部丘陵の担い手育成の取組を実施し、南部丘陵の緑地保全の人材育成へ貢献している。

2 管理運営状況

(3) 収支

ア 収支状況

(単位:円)

■ 指定管理業務

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	【参考】令和5年度(予算)
指定管理者名		ふれあいの森パートナーズ	ふれあいの森パートナーズ	ふれあいの森パートナーズ	ふれあいの森パートナーズ	ふれあいの森パートナーズ
収入	指定管理料	35,924,074	35,924,074	35,924,074	36,924,074	36,924,074
	利用料金	0	0	0	0	1,000
	負担金	0	0	0	0	0
	その他	98,023	129,544	175,799	518,606	264,400
合 計		36,022,097	36,053,618	36,099,873	37,442,680	37,189,474
支出	人件費	21,488,501	21,343,500	22,023,925	22,546,510	22,198,640
	委託料	3,160,676	4,639,956	4,251,536	3,642,036	4,242,296
	総支出額に占める委託料の割合	8.9%	12.9%	11.8%	9.7%	11.4%
	修繕費	1,633,434	2,134,852	1,807,116	1,773,156	1,720,000
	光熱水費	1,196,996	884,591	1,229,390	884,183	1,320,000
	その他	7,864,586	7,044,331	6,783,431	8,523,055	7,708,538
合 計		35,344,193	36,047,230	36,095,398	37,368,940	37,189,474
収支差額		677,904	6,388	4,475	73,740	0
(市への納付金の額)		-	-	-	-	-
(徴収委託の場合の徴収額)		-	-	-	-	-

■ 自主事業 (有)

(単位:円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	【参考】令和5年度(予算)
収 入	285,546	352,947	516,763	644,062	523,600
支 出	333,298	295,083	506,164	460,682	407,000
収支差額	-47,752	57,864	10,599	183,380	116,600
(市への納付金の額)	-	-	-	-	-

イ 取組状況

経費の縮減、経理事務等	指定管理業務の新規委託業務においては、3社見積もりを取り経費を削減することが出来た。また、光熱水費についても、節電・節水を心掛け、予算額を下回ることが出来た。自主事業の収入については、未就学児を対象としたプログラムの実施回数を増やすことにより、予算を超える収入を得ることが出来た。
-------------	--

ウ 市による状況分析

委託業務について見積もり比較を行うなど経費削減の工夫や光熱水費についても節電・節水の工夫を実施し、令和4年度よりも支出を抑えることができ、経費削減につながっている。

3 目標管理、総合評価

(1) 目標管理

ア 仕様書で定める目標の達成状況

■ 適正な管理運営の確保

指標	目標	実績
有責事故発生件数	有責事故発生件数0件	有責事故発生件数0件
遠足等で来園した小学校数	30校以上	39校

■ 利用者サービスの向上

指標	目標	実績
来園者数	33,000人以上	30,270人
利用者満足度	来園者の満足度 90%以上 イベント参加者の満足度 95%以上	来園者の満足度96.8% イベント参加者の満足度99.2%

■ 収支

指標	目標	実績
適正な経費の支出	事業計画に基づく適正な経費の支出	事業計画に基づく適正な経費の支出

イ 市による状況分析

- ・新型コロナウイルス感染症による影響により減少していた来園者が徐々に回復し目標値には届かなかったが、イベントの定員を増やすなどにより、5年振りに3万人を上回った。
- ・教育センターと連携し、教員向けの研修会や科学教育フェスタへの出展などの働きかけが小学校の利用増加につながったと考えられる。

(2) 総合評価

目標の達成状況のほか、管理運営状況も含め、以下の評価基準により総合的に評価を行う。

	指定管理者	所管課
評価	B	B
評価の理由	・有責事故発生件数、遠足等で来園した小学校数、利用者満足度、収支は目標を達成した。 ・一方で、来園者数については、小学校等の団体受入れなどを積極的に行い過去4年で最も多い来園者数となったが、8月は暑さ指数の「厳重警戒以上」が出された日が30日間だったことなど来園を躊躇する要因が多かったことから、目標値を下回った。	・来園者数の目標値は達成できなかったが、その他の項目については目標達成しており適正な管理運営を実施できている。 ・南部丘陵の緑地保全の担い手育成の取組を行っており、南部丘陵の緑地保全の人材育成に貢献している。
今後の取組	・来園者数を増やすため、プログラムチラシのデザインを見直し、他施設での配架時に目に留まるよう工夫し、団体やプログラム参加者にもチラシを配布するなど取り組む。 ・南部丘陵の拠点施設として、担い手育成として、参加する大学生の幅を広げるため、近隣の大学等に声かけを行い、より発展させた取組を行う。	・引き続き、来園者の満足度向上及び来園者数の増加に努められたい。 ・大学生への担い手育成の取組や企業との新たな連携など、南部丘陵の緑地保全の拠点施設としての取組を積極的に提案し、実施されたい。

評価基準	A 仕様書で求める目標や水準を上回る管理運営がなされ、優良であるもの
	B 概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80～100%)の管理運営がなされ、適正であるもの
	C 管理運営が仕様書で求める目標や水準を下回っており、努力が必要であるもの
	D 管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要であるもの